作者： Administrator
2014年 11月 20日(木曜日) 00:00 - 最終更新 2014年 11月 20日(木曜日) 14:09

会 長 便 り

新しい北光会となる意識改革を

～若年層の理解を得るために～

菊 地 芳 朗 (GS34)

今年の総会は19年振りに札幌で行いました。総会終了後，ノーベル化学賞受賞者　鈴木章北海道大学名誉教授から「ノーベル化学賞を受賞して」と題しご講演を頂きました。北光会としては，今まで経験のないことで，ご努力頂きました北海道支部の皆様にお礼申し上げます。

加えて，この原稿の締め切り間際に本号で紹介しておりますように，６月にお亡くなりになりました角銅立身氏（BS23）のご遺族より世界記憶遺産・山本作兵衛氏炭坑記録画の原画２点を鉱業博物館に寄贈して頂くことになりました。ご遺族を始め関係者の皆様にお礼申し上げます。

さて，今年の夏は異状気象でした。各地に気象台が観測してから初めてという集中豪雨があり被害をもたらしました。広島市では土砂災害で74名の尊い命がなくなりました。ご冥福をお祈り申し上げます。会員の皆様は如何であったでしょうか。災害に遭われた方々にはお見舞い申し上げます。

集中豪雨と云えば，若い頃当時の北ボルネオのジャングルで地質調査をしていた頃，スコールを経験しました。最近の国内の豪雨は，南国のスコール以上の気がします。しかもスコールは一時的ですが，最近の豪雨は長時間に亘ります。国土の保全と安全対策の見直しが必要と思われます。

また，海外への渡航歴のない人がデング熱に感染しており，拡大の兆候があります。

これらの原因は温暖化のせいでしょう。蜜柑の生産地が東北地方となり，お米の美味しいのは北海道産米が多くなるのもそんなに遠くないのかも知れません。

さて，北光会のことですが，最初に活動支援金寄付をお願いしましたところ多くの皆様からご援助を賜り厚く御礼申し上げます。

３月末の合計は237万円でしたが，４月に「北光」を発行してから現在まで更に133万円のご芳志を頂きました。改めて感謝申し上げます。今後も引き続き行いますのでよろしくお願いいたします。

北光会は国際資源学部と理工学部の同窓会となりました。組織が大きくなりましたが，最大の課題は会の活性化と会費納入率の向上で，これに伴う財政のことであります。会費の納入状況を分析してみますと，一にも二にも納入率向上には若年層対策につきることが判明しました。しかしながら卒業した若年層とのコンタクトは事務局長のブログなど色々対策を取っておりますが極めて困難な状況にあります。理解頂くためには準会員（学生）の時から北光会を理解して頂くことが必要と考えます。

両学部は本年度から創立75周年・100周年の基金を返済の必要ない給付型の奨学金として給付することになりました。

給付する時に「この奨学金は北光会からも協力して頂いているものです」と話して頂くようお願いし，了承を得ております。

一方北光会としては昨年，秋田支部と大学支部が共同で企業見学を行い，準会員も参加し好評でした。今後もこの様な準会員も参加出来る活動を進めて頂くよう地元の両支部にお願いしているところです。

ここで私ども自身のことを考えてみたいと思います。

私どもは学部の基盤を資源に置いてきました。しかしながら平成に入る頃より国内の鉱山は激減いたしました。そして平成２年に学科名の変更，平成10年には学部名を変更しました。卒業生の多くは資源と関係ない企業に勤めるようになりました。そうしたなかで開学の精神を資源において創立100周年の活動を行ってきました。

会費未納者は平成２年に学科名が変更され，その方々が卒業した平成６年から多くなっております。

この度，両学部が誕生したことで定款の目的等を改正いたしました。これからは資源と共に理学や工学と幅の広い考えで行かなければなりません。そのためには新しい北光会となる意識改革が必要ではないでしょうか。そして若年層から理解を頂くよう努力し，会の活性化と会費納入率の向上に努めなければなりません。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

北光会は皆様の会費で維持されております。
会費納入率の向上にご協力ください。

作者： Administrator
2014年 11月 20日(木曜日) 00:00 - 最終更新 2014年 11月 20日(木曜日) 14:09